

I T S、セカンドステージへ 提言(案)の概要

1. I T Sの進展

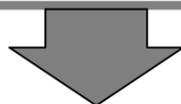
(1) I T Sの進展

カーナビ、V I C S、E T C、A S V、バスロケなどの新たなサービスが具体化、急速に普及。



(2) 現在のI T S関連市場

すでに市場規模も 12 兆円規模にも上っている。



2. セカンドステージに入ったI T S

(1) 現れ始めたI T Sの効果

I T Sの進展に伴い、カーナビ・V I C Sによる利便性・安全性向上、バスロケによるバス活性化、E T Cによる渋滞緩和、E T Cによる多様な料金施策の実現など、安全で円滑な道路交通や生活環境の改善などが実現し始めている。



(2) I T Sのセカンドステージ

I T Sのセカンドステージにおいては、I T Sの個別システムがさらなる普及、進化、発展。自動車、情報通信、まちづくりなど多くの分野との融合により、利用シーンが増加。I T Sは先端・流行のサービスから社会の変革に貢献。



(3) スマートなモビリティ社会の展開

安全・安心、豊かさ・環境、快適・利便などの視点から、移動・交通の質を向上。社会的な課題の解決に貢献し、生活や社会を変えていく。



(4) I T Sにより実現する社会の姿

クルマ社会がもたらした負の遺産の清算

交通死亡事故ゼロ、C O²排出量の削減、沿道環境の向上、E T C標準装備による渋滞削減を目指す。

豊かな生活・地域社会の実現

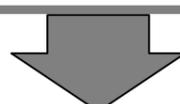
スマートI C導入による高速道路I Cの倍増、全国高速バスロケ、I T Sを活用した駅周辺整備や公共交通システムの導入、災害時等の適切な情報提供の実施を目指す。

高齢者、身障者のモビリティ確保

情報提供やキャッシュレス化による高齢者・身障者の負担の軽減や安全な運転の支援、公共交通によるシームレスな移動、安全で安心な歩行環境の確保を目指す。

ビジネス環境の改善

シームレスな情報サービス、計画的な集配や運行管理、道路・自動車関連ビジネスの効率化による業績向上、労働安全環境の改善を目指す。



3. スマートウェイの推進方策

(1) 国家戦略としての一層の加速推進

・セカンドステージに入ったI T Sを国家戦略として、一層の加速推進

(2) 官民あがての取り組み強化

・10月のI T S名古屋会議における世界に対する情報発信、愛知万博における市民に対するアピール

(3) I T Sによるサービスシーン

安全・安心：案内、警告サービス、道路行政の効率化など
豊かさ・環境：スマートI Cによる地域再生、公共交通支援など
快適・利便：情報提供の充実、車内空間の高付加価値化など

(4) 2007年に本格的なI T S社会を実現

多様なI T Sサービスの展開：「車両情報送信」、「決済」、「案内、警告」、「情報提供」といった基礎的サービスを順次展開

展開シナリオ：

・基礎的サービスの活用や組み合わせにより、「あらゆるゲートのスムーズな通過」「場所やニーズに応じた地域ガイド」「タイムリーな走行支援情報の提供」のI T Sサービスを2007年までに開始する。

・歩行者の携帯端末や家庭のパソコンなどとの連携も進め、車内のみならず常時シームレスな情報環境の構築を推進すべきである。

共通となる基盤の整備：I T S車載器の開発・商品化、基盤の整備

(5) 相互協力と協調の推進

技術研究開発の推進

・産学官の連携および国際間の連携等による技術開発

地域・市民との連携

・N P O、市民団体等との連携などの取り組み

・様々な利用者への啓発

国際協調の推進

・国際標準化活動の継続、強化

・技術、人材の国際交流、教育